



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行
インターネットでも
ご覧いただけます。

<http://www.jcp-ktib.com/>

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468

市議会議員
鈴木やす子
42-2462

新しい市民病院 計画の概要示される

内科、小児科・産科の充実をはかる

12月定例市議会に先立ち、11月30日に議員全員協議会が開催され、市長から、新しい市民病院建設基本計画の概要が示されました。それによると建設予定地は、すでに報じられているとおり神岡上字二ツ島で、北部幹線道路の海側の市有地を含む山林です。

診療科目と医師数は下表のとおり。病床数は160で、答申にあった210より少なくなっています。人口

診療科目と医師数

内科	8	3
小児科	3	4
外科	4	2
整形外科	2	1
脳神経外科	1	3
産婦人科	1	3
泌尿器科	1	1
眼科	1	1
(計)	23	31名
耳鼻咽喉科	2	3
皮膚科	非	常勤
放射線科	〃	〃
麻酔科	〃	〃

減と入院日数の短期化をふまえて、必要ベッド数を割り出したとのこと。日立医療圏として近隣病院との連携・役割分担を明確にし、二次医療機関として救急を受け入れる最低限の構成です。いっぽう、内科、小児科・産科の充実を

はかることが特徴です。概算事業費は約60億円で、そのうち50億円以上を起債に頼ります。ただし、現在の病院収益が改善されなければ起債は困難としています。それでも、平成19年度に用地調査測量等の予算は計上する考えが示されました。

議員からは、脳外科が充実していた市立病院の特徴を捨てていいのかとときびしい意見が出されました。また、病床数の減少は、医療収益の点から経営が成り立つのか疑問も出されました。今回の計画概要提出を受けて、この12月議会および3月の予算議会で議論が交わされます。



市民の手づくり「雨情の里音楽祭06」

11月26日、「雨情の里音楽祭」が市民ふれあいセンターで開かれました。構成・作・出演、舞台作りとすべて市民の手づくりでおこなわれる音楽祭も4年目となります。

今年、第一部として各グループの発表。市内だけでなく、近隣市からの参加者もあり、独唱、コーラス、器楽演奏など、多彩な音楽が登場しました。第二部では、音楽劇「魔女チョシパと歌のない町ノースイバラキ」が披露さ

れました。音痴の魔女によって歌のない世界にされてしまった町に、子どもたちの友情をつうじて、歌を復活させるというストーリー。米米クラブの石井竜也さんが北茨城市のイメージソングとして創った「やさしい町」のメロディを軸に、せつなさあり、笑いありの舞台劇がくりひろげられました。

アンコウ鍋の会食会

今年は
明德小で

北茨城市観光協会は、11月21日、明德小学校で「アンコウ鍋会食会」を開催しました。

アンコウは、市の魚として認定されて、観光の目玉となつていきます。ところが、昨今、漁獲量が減少していくなかで高級魚となり、市民の日常の食生活から遠のいている面もあります。

そこで協会では、昔からのアンコウ鍋の味や伝統的な吊し切りを子どもたちに伝えたいと、民宿組合の協力も得て、小学校を対象に会食会を開いています。アンコウの吊し切りを見



るのは初めてという子どもたちも多く、大きく皮を剥くときなど歓声があがりました。味は、民宿組合の方々の工夫もあり、好評でした。

また会食の前には、4年生児童によるアンコウの研究発表や「トロの主題歌・散歩」に合わせてアンコウをうたった替え歌も披露されました。初めての取り組みとなった昨年は平潟小学校が会場でした。1年に1校のペースで今後も続けていくとのことです。

